

さくら学園構想図

=各務原市におけるコミュニティスクール=
9年間を通して、地域住民の一人として成長していく「地域の子どもたち」に願う姿を地域ぐるみで考え、実践することで、誇り・やさしさ・活力があり、郷土を愛する児童生徒を育成していくことを目指す。

=桜丘中校区の教育目標=
地域社会の一員として、
人との関わりを大切にして共に最後までやり抜く子の育成
自立・共生・自己実現

めざす姿
・明るく笑顔であいさつを交わせる子
・家族や地域の一員として協力して活動できる子

郷土を愛する心

誰もが安心して学べる学校
お互いが助け合い、協力し合う関係を高める

わが子の健やかな成長を
自分のことは自分でできる
基本的な生活習慣を身につける

地域の一員としての自覚を
さまざまな体験を通して、地域や地域に生きる人々のよさを知る

学校の児童生徒の実態
・値打ちのあること、よいと思うことには進んで取り組もうとする。
・学級や学年、全校の活動に協力して取り組むことができる。
・互いの気持ちを十分に理解し合えずにトラブルになることもある。
・自分に自信がもてず、自己肯定感や自己有用感の低い児童生徒が一定数いる。

家庭の実態
・学校の教育活動に協力的で、学校と共に子どもを育てていこうという気風ができています。
・価値観の多様化、家庭環境の違い、PTA活動や地域活動に対する考え方の違いがある。
・地域との関係が希薄になりつつあり、緊急時の対応が十分にとれないことが危惧される。

地域の実態
・見まもり隊やボランティアなど、学校の教育活動に協力的である。
・少子高齢化が進み、地域活動の担い手が高齢化している。
・互いの関係が希薄になりつつあり、緊急時の対応が十分にとれないことが危惧される。

学校間の連携を通して、互いを理解したり、小から中へのスムーズな移行を目指したりしていく。

学校、保護者、地域が共通理解のもと、子供の健やかな成長を目指して、子供のよさを大いに褒めることを大切にする。(子供の承認欲求を満たす。→自己肯定感の向上へ)

学校と地域をつなぐ機会を設定する。
合同資源回収
市青少年育成市民会議 など